

みんなの目が
未来を見つめる目が 輝いています



絶滅の危機にひんしたコウノトリを保護し、壊された水辺を再生して、里に帰していく野生復帰の取り組みは、ふるさとの自然や暮らしを見つめ直すことでもありました。

先人から代々受け継いできた自然や暮らし、知恵や技術がいかに大事なものだったかを学びました。そして、取り戻した時の感動、次の世代に伝える喜びを体感しました。

コウノトリたちは、ようやく30羽以上が豊岡の空を舞うようになり、彼らを支える豊岡の風土がよみがえりつつあります。

でも、不安定です。
だから、今、未来への責任を果たすため

ずーっと ずっと 先の世代まで
安心して引き継げるよう

暮らしを
自然を
ラムサール条約に登録して
世界のラムサール仲間とともに
もっともっと輝かそう!!



発行：コウノトリ生息地保全協議会
〒668-8666 豊岡市中央町2-4 豊岡市役所内
TEL 0796-21-9017

企画・編集：コウノトリ湿地ネット
〒669-6103 豊岡市城崎町今津1362 ハチゴロウの戸島湿地内
TEL 0796-20-8560 FAX 0796-20-6302

ふるさとの自然と暮らしを ずーっとずーっと

先の世代まで引き継いでいくために



円山川下流域の 河川・田んぼ・湿地を

ラムサール条約へ登録しましょう



円山川と周辺の自然は、 私たちの大切な財産です。

満々と水を湛え、水の流れを感じさせない。
両側の山並みを映す鏡のような水面に身を置くと、
あたかも母親に抱かれたような気持ちになる。
円山川の特徴を最も表しているのが下流域です。



ハマグリ漁

円山川は、生物の多さでも日本有数を誇ります。塩水と淡水が入り混じる下流域は、多様な魚やエビ、貝が採れ、古くから人々に恵みを提供してきました。



円山川を中心にした周辺の山、田んぼ、湿地。それらがつながり、分担し合って、豊かな生態系を構成しています。

自然の恵みをいただく。
利用する。

柳細工
コリヤナギを加工する伝統の技は、品格漂う工芸品に。



城崎温泉街も、水辺(大谿川)が中心です。



ワカメ漁

広場での天日干し作業は田結地区の春の風物詩です。



玄武岩の石垣

築かれた石垣の高さは、水害から家屋を守る砦のラインです。経験による知恵は見事な景観にもなっています。

農作業の手を休めるひととき
いつもの景色が応えてくれます。

見つめてみよう。 私たちの暮らし・自然。

なぜ、ラムサール条約に

ラムサール条約とは

正式名称を「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」と言い、国家間で協力して水辺の自然を保全することを目的とした国際条約です。

1971年にイランのラムサールという都市で開催された国際会議でこの条約が採択されたので、一般には「ラムサール条約」と呼ばれています。

条約では、各国に存在する重要な湿地を選定し、国際的に保全するものとして登録する制度を設けています。2011年4月現在、世界で1,929カ所の湿地が登録されています。

日本では、釧路湿原や琵琶湖、三方五湖など37カ所が登録されています。山陰では中海・宍道湖が2005年に登録されました。兵庫県には(隣の岡山県、大阪府、京都府にも)、まだ登録湿地はありません。

「湿地」って何？

湿地とは、水がその場所の環境やそこに暮らす動植物の生活に大きく影響しているところ、生きものの側から見れば、いのちを育んでくれるゆりかごです。

水を供給することで、光合成による無機物から有機物へ生産する場を提供し、数え切れないほど多くの動植物の生存を支えています。植物の遺伝子バンクの役目も果たしています。湿地は、最も生産性の高い環境のひとつなのです。

ラムサール条約では湿地の概念を広くとらえ、河川や低潮時の水深が6メートルを超えない海域、農業用のため池などの人工湿地も湿地に含めています。水田も重要な湿地です。

登録するの？

円山川下流域を登録する意味

豊かな水辺環境の中でコウノトリを復活させてきた円山川下流域は、まさに「国際的に重要な湿地」だと思います。

円山川で暮らす魚の種類は108種と近畿第2位*の豊さを誇っています。両側には氾濫原の名残を今に残す風景が見る者を落ち着かせてくれます。また、湿地は洪水の影響を緩和する役目も果たしてくれました。長い歴史の中で、自然が織りなし、人々が培ってきた産物です。

しかし、私たちは、経済優先時代にコウノトリを減ぼしてしまったという苦い過去をもっています。現在でも、湿地の機能を劣化させたり、風景を壊してしまう行為がなくなるとは言えません。

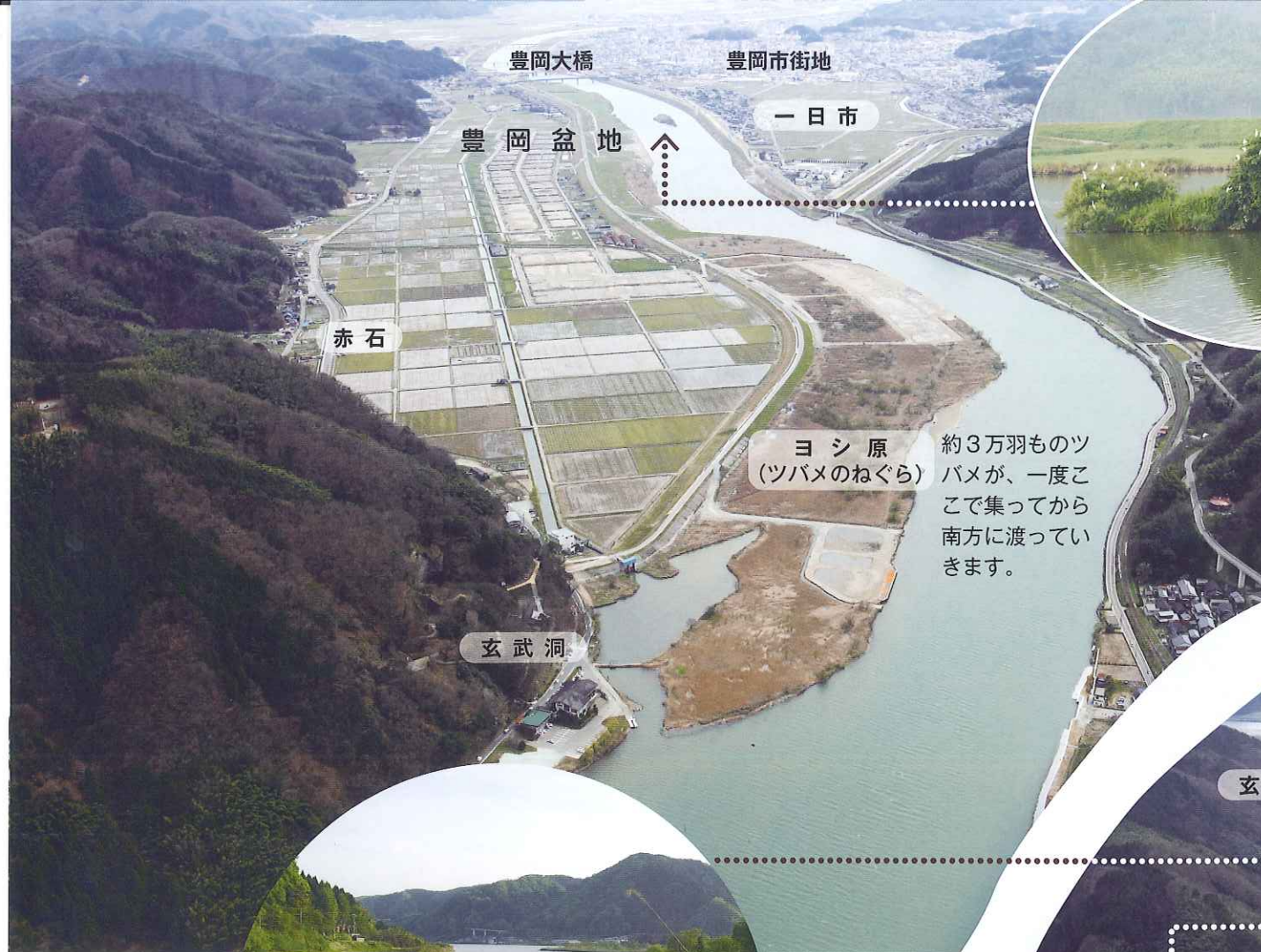
一度、湿地の機能を喪失させてしまうと、その回復には多くの年月と労力、資金が必要なことは、コウノトリの復活過程を見ても明らかです。

私たちは、これからも様々な局面で、再び経済的な側面だけで判断してしまうかもしれません。そんなとき、『そうじゃないだろ!』と叱ってくれるもの。下流域の暮らしと自然をずっと将来まで揺るぎなく存続させていくもの。

それが、ラムサール条約に登録することだと思っています。

*... 1996~2004年河川水辺の国勢調査

下流域の暮らしと自然をずっと揺るぎなく存続させよう!



ヨシ原 (ツバメのねぐら) 約3万羽ものツバメが、一度ここで集ってから南方に渡っていきます。



一日市島 コサギやカワウの群れとともに、ノスリなどの猛禽もよく利用します。



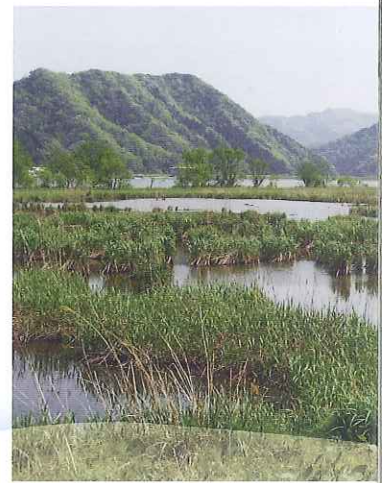
ミズオオバコ



島の中に造成された湿地。治水対策と水辺環境の再生のために低く削られました。



ひのそ島



カワセミ

コウノトリやヘラサギも利用。



ヘラサギ



多くの渡り鳥の休憩地・ひのそ島



ミサゴ



玄武洞

ひのそ島

結和橋

来日

桃島池

城崎温泉

城崎大橋



汽水域に棲むヒヌマイトトンボ 下流域のヨシの中で、もぐり込むように暮らしています。

ミズアオイ



幻の魚と言われるイトヨも、産卵にやってきます。





ハチゴロウの戸島湿地

下流域の中心地にある戸島湿地は、コウノトリの餌場環境を再生するために造成されました。水辺生態系を豊かにしていくために、様々な実験が展開されています。コウノトリの夫婦は、ここで居を構え、半径5kmの範囲で餌をとって子どもを育てています。



ヒメシロアサザ

淡水域



巣立ち直後のコウノトリファミリー



汽水域



鼻かけ地蔵まつり(6月)



気比～畑上の水田

田結地区の自然再生

耕作されなくなった水田地帯で、地域あげての湿地づくりが取り組まれています。湿地が広がるにつれ生きもののにぎやかになり、一帯はコウノトリとともに輝きを増してきました。



板で畦づくり



水を引き込んで湿地に



オオアカウキクサ但馬型



モリアオガエルの卵塊

